

マキノ病院ニュース

第124号

— 令和4年11月1日発行 —

マキノ病院に赴任して24年を経て

整形外科部長 笠原 壽人

私がマキノ病院に赴任して24年になります。赴任して2年後に大阪の病院に移り、その2年後にマキノ病院に帰ってきました。その後働き始めて20年になるので「何か書け」ということですので改めてご挨拶を申し上げます。初めて来た年の冬は平成10年で大変な雪が降った年です。私は京都育ちでそれほど雪に慣れていませんでした。ある日の朝、何も雪のない駐車場に車を止めて、午後には手術があつて周りの状況がわからないまま、家に帰ろうとしたときに車の窓のところまで雪が積もっていました。およそ9時間間の間にそんなに雪が降るものなのかと驚きました。ちょうどその1週間ほど前に、当時小児科にいた岡田先生から「お前、スタッドレスどうすんの？」と聞かれて「スタッドレスって何？」から始めて準備をしておかきで難は免れましたが、タイヤのおかげで自分の車が雪道を走れても周りの車がノーマルだったりして困

ることはもちろんあります。帰れなくて何度かこのあたりのホテルのお世話になったこともありました。またその当時火曜日に来られていた谷先生に、「スタッドレスどうしてんの？」と私が聞くと「スタッドレスって何？」と。もう3年ほど通勤しているはずなのにずっとノーマル。少なくとも今より雪の多かつた道路を通勤していたはずなのに4輪駆動つてさすがやなあと感心した覚えがあります。私は当時も今も堅田周辺に住んでいたので大体50キロ弱を50分ほどで通勤しています。距離は長いけれど通勤は快適です。信号も全部で8つしかないうえに止められることもあまりない。また、マキノに来るまでの景色がとてもきれいなので運転に飽きません。私の一番のお気に入りには、北小松駅近くから見る山の景色です。高い山じゃないけど眼前にふもとまで広がる山は壮大で見とれてしまいます。そして、いろ

んな人が書いていますが、比良ランプからスポーツ成蹊大に降りていく道から見る琵琶湖の景色です。沖島が琵琶湖の中に浮かんでいて、その向こうに山の景色が広がり、日ざしが湖面に反射し下り坂に広がるので絶景です。そういうきれいなところをたくさん通るので、白髭神社の湖中の鳥居をわざわざ横断禁止と書いてあるところを危険な思いをして国道を歩いて渡つて見学する人が多いけど、「もつときれいなところがいっぱいありますよ」といいながら見えています。マキノ病院には「患者中心の医療」という理念があります。患者さんを中心に考えるなんて、そんなものは当たり前のことで、それがなかなか我々にとっては合理的な考えです。要するに迷ったときに初めに経営を考えるのではなく患者のことを第一義に考える、ということなので、いいと思ったことをお勧めすることが難しいかもしれない、あるいは経験の少ない手術を要するときに、

ほかの病院に紹介することも迷う必要がありません。大阪では手術を失敗したら2回できると豪語した病院の経営者を見たこともありましたから、この理念は医療に対して真摯に向き合える理念になっています。今は充実したりハビリがついてくれていますので保存療法も昔に比べて相当できるようになりました。平成10年当時は理学療法士が一人でしたが、今は理学療法士、作業療法士、言語聴覚士合わせて30人以上いて、何より知識や技術が当時と比べ物になりません。京都から彼らを訓練しに来ていた方たちには日本を代表するレベルの理学療法士です。またマキノ病院にもそういう人たちが追う人材が育っています。まもなく冬が来ます。以前のような雪にはならないと思いますが、皆さんがすべて骨折されて救急車で来られることがないように祈りをしています。ご自愛ください。

また、学童期の年齢でも熱性けいれんと考えられる発作を認めるケースもみられます。両親や兄弟に熱性けいれんの既往があると、熱性けいれんを認める可能性は高くなります。熱性けいれんは、特に発熱の前後に数分程度の発作を認めるものの、自然

かせないようにすることも大事かと思えます。発作については、ガタガタ震えたり、身体が強く強直したり、けいれん様の動きはないものの脱力したりと様々です。保護者にとつては、もう死んでしまうのではないかと思ってしまうこと、一度おさまったと思われたいけいれんが再度起こることなどもありますが、時間帯によらず救急要請の上で受診するようにしていただきたいです。(稀に自家用車で病院に来られることがありますが、車内で嘔吐したり、再度けいれん発作が起こったりした場合、極めて危険ですので注意してください) 発作が自然におさまる、意識状態も改善を認める場合は、特に血液検査や入院の必要性のないことが多いですが、その場合でも慎重な経過観察は必要となります。熱性けいれんを起すお子さんのほとんどが大きくなるまでに1回のみの発作で終わりますが、中には2回、3回、あるいはそれ以上の熱性けいれんを繰り返すお子

ドクターコーナー



CHOSHINKI

熱性けいれんは、主に生後6か月から5歳までの乳幼児期に起こる、発熱(通常は38℃以上)に伴う発作性疾患とされます。てんかんの既往がある場合や、髄膜炎などの明らかな発作の原因が判明する場合は除外されますが、発作が起こってすぐに判断することは困難なこともあります。

熱性けいれんについて

小児科 河原 敦

におさまる、特に問題なく落ち着くことがほとんどです。以前は舌を噛まない様にと口の中に何かを入れるという話をよく聞きましたが、窒息の危険性もあり危険ですので注意してください。また、けいれん後に嘔吐する

まう恐ろしい時間だと思えます。冷静になることは難しいと思いますが、直ちに救急要請してください。ほとんどのケースで病院に着くまでに発作が落ち着いてしましますが、中には治療をしないと発作が止まらないことや、発作がおさまっているのか判断が

難しいことや、一旦おさまったと思われたいけいれんが再度起こることなどもありますが、時間帯によらず救急要請の上で受診するようにしていただきたいです。(稀に自家用車で病院に来られることがありますが、車内で嘔吐したり、再度けいれん発作が起こったりした場合、極めて危険ですので注意してください) 発作が自然におさまる、意識状態も改善を認める場合は、特に血液検査や入院の必要性のないことが多いですが、その場合でも慎重な経過観察は必要となります。熱性けいれんを起すお子さんのほとんどが大きくなるまでに1回のみの発作で終わりますが、中には2回、3回、あるいはそれ以上の熱性けいれんを繰り返すお子

さんもおられます。その場合は、個々のケースや地域の医療情勢に合わせて対応が必要となつてきます。発熱時の解熱剤の使用についてや、けいれん予防の座薬投与の是非などの相談をしていくこととなります。繰り返しになりますが、遠慮なく、躊躇なく救急要請してよい、救急要請したほうがいい状況だということを知っておいていただけたらと思います。

診療科のご案内
 内科・外科・小児科・整形外科・皮膚科・神経内科・総合診療科
 肛門外科・泌尿器科・リハビリテーション科・リウマチ科・放射線科
 【救急指定・労災指定】【人間ドック・各種健診】

— 診療受付時間 —
 平日 8:30 ~ 12:00 16:40 ~ 19:00 土曜日 8:30 ~ 12:00
 滋賀県高島市マキノ町新保 1097 TEL 0740-27-0099
 ホームページ <http://www.makino-hosp.or.jp>